



[評者]
宮地 紘樹
掛川東病院院長

ジェネラリストのためのこれだけは 押さえておきたい皮膚外用療法

安部 正敏 著

●A5 頁276 2023年4月
定価：4,620円（本体4,200円＋税10%）
[ISBN978-4-260-05023-4] 医学書院刊



皮膚科学はジェネラリストにとって重要な分野であり、日々の診療において多くの患者が皮膚トラブルに直面している。そのため、皮膚疾患に対する適切な外用療法を知っておくことは、ジェネラリストにとってきわめて有益と言える。

本書は、皮膚科臨床現場の第一線で活躍する著者が、ただ知識を共有するだけにとどまらず、ジェネラリストの立場を深く理解したうえで内容構成したものとなっている。そのためすぐに現場で使えるという点においては、ほかの教科書とは一線を画するものである。

構成もユニークで、まず本を開くと「筆者独断！ ジェネラリストの診療の幅を広げるこの10剤！」というイントロダクションから始まる。これは料理で言えば、素人でもプロの味に近づけるちょっとしたコツを公開したものであり、知識を独占しないという著者の太っ腹な愛情が感じられた。ぜひここだけでも持ち帰ってほしいという知識が込められている。

続く総論では、外用薬の基本を簡潔かつ

十分に伝えている。混合薬処方の特長やデメリットなどは、すべての医師が知っておくべき知識だろう。また日常の診療ではキャッチアップが困難な新外用薬についても触れられており、基本を復習しながら自然と知識のアップデートにもつながるうれしい内容構成だ。

各論では、実際に臨床の現場でよく出会う疾患別に診断・治療のプロセスを学ぶことができ、具体的な処方例も記載されている。外来診察にとどまらず、訪問診療でのシチュエーションにも言及されており、高齢化が進む昨今の医療状況に沿ったアドバイスが豊富である。また使用する外用薬は、医薬品だけでなく化粧品や市販の衛生材料も写真とともに掲載されており、皮膚科を専門としない医師が患者に寄り添ったアドバイスをする際に役立ちそうだ。

全体を通して、つつい患者に話したくなるような診療のTIPSが満載で、ジェネラリストが皮膚疾患に対峙する際の強力な助っ人になることは間違いないだろう。